

# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                 会 議             </div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	3093
		決裁期日	令和6年1月30日
名 称	令和5年度第1回安平町総合教育会議		
日 時	令和6年1月29日 午前・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">午後</span> 2時00分～3時30分		
場 所	安平町総合庁舎 大会議室		
出席者	町 長 : 及川 秀一郎 教育委員 : 種田 直章 (教育長) ほか委員3名 事務担当 : 渡邊 匡人 (政策推進課長)、笹山 陽平 (同主査) 永桶 憲義 (教委事務局次長)、佐々木英生 (同参事)、小笠原 伴行 (同参事)、 前田 繁 (同課長補佐)、武田 一倫 (同課長補佐)、秋田 一篤 (同課長補佐)、 井内 聖 (地域プロジェクトマネージャー)		
会議概要	<p><b>1 開会 (進行 渡邊政策推進課長) (略)</b></p> <p><b>2 町長挨拶 (及川町長)</b>                  以下、情報提供を含めた挨拶内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 能登半島地震で被害を受けた方々に対しご冥福をお送りする。当町からは被災地支援として、5日間にわたり富山県氷見市に3名の職員を派遣し、罹災証明書発行のリーダー的な役割で対応を行った。保健師の派遣についても北海道と調整を行っている。</li> <li>* 安平山スキー場が1/22にオープンしたが、強風等の影響でリフトの不具合もあったが、何とかオープンしている。</li> <li>* 早来学園の関連では、校舎が北海道赤レンガ建築賞を受賞したということで、設計者・施工者とともに受賞し、挨拶をさせていただいたところ。</li> <li>* 本日、プレス発表された日高線・室蘭線のラッピング列車がお披露目になったということで、2月11日苫小牧駅にて列車に乗る予定であること。いずれにしてもJR室蘭線の黄色線区の問題があり、そういった取組みの一環として走るものであり、今後もこうした室蘭線の維持存続に向けて様々な取組みを進めていく。</li> <li>* 追分高等学校の存続支援に関しては、教育委員の皆様にも様々ご検討いただき、この1年間取り組んできたことが、出願状況の結果として現れたことから、非常にうれしく思う。</li> <li>* こうした取組みの結果が、2か年連続社会人口の増にも繋がっている。</li> <li>* また、明日、千葉県柏市に昨年9月開校したインターナショナルスクールの視察をしていくところ。ラピダスを含めた様々な動きに対応しながら、安平町の発展のためにまちづくりを進めていきたいと考えている。</li> </ul> <p><b>3 協議・調整事項</b></p> <p>(渡邊課長)                  総合教育会議につきましては、議案の2ページ目にあるとおり、安平町総合教育会議設置規定第4条第3項の規定により、町長が議長として進行いたします。</p> <p>(町長)                  それでは、議事進行させていただきます。議案1ページの3の協議調整事項「(1) 令和5年度の主な教育予算について」説明願います。</p>		

——(1) 令和5年度の主な教育予算について——

**(渡邊課長) 【令和5年度予算編成方針の概要説明】**

- ・まず、私の方から、令和6年度の予算編成にあたって、職員に周知しました基本的な方針について若干説明したい。
- ・安平町における今後の財政の見通しとは、後期財政計画においてもお示ししていることですが、昨今の社会情勢や物価高による人件費、燃料費、光熱水費の経常経費や資材の高騰などの大きな変化を、町税や普通交付税の自主財源で吸収し対応することは難しい状況にあります。さらに、残る大きな復興関連事業である「早来公民館(町民センター)改修整備(防災支援施設改修整備事業)」の着工を令和6年度に控えていることや、完了した早来学園整備事業などの復興関連事業の借入に伴う地方債の償還もあり、町財政への負担はこれまで以上に厳しい状況が続くものと想定されています。半導体メーカー「ラピダス」の千歳市進出に伴う居住先の確保などの新しい動きも予想されているものの、それ以上に物価高騰の影響が長く大きいことで先行きを見通すことが依然として困難な状況にあることを念頭に、財政構造の弾力性の維持や財政運営の健全化を図っていく必要があります。
- ・令和6年度の予算編成については、そうした背景の中で近年にはない困難さがある状況ですが、まちづくりの将来像である『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち』の実現に向け、第2次安平町総合計画後期基本計画との整合を図り、それ以外の通常事業については、職員一人ひとりが本町の財政状況や今後の財政見通しを十分認識し、引き続き住民サービスや地域経済を支える取り組みを行いながら、前例にとらわれることなく、時代のニーズを的確に捉え、各政策・事業、事務事業の廃止、見直しを行い、限られた財源を最大限有効に活用することで、財政計画に基づく持続可能な財政運営を確保しつつ、総合計画や総合戦略に基づく諸施策を積極的に推進するよう職員に指示をしているところ。
- ・それでは続いて、教育委員会から主な教育予算について説明をお願いしたい。

**(永桶次長・佐々木参事) 【令和6年度の主な教育予算の概要説明】…資料1**

- ・資料1に基づき、学校教育グループ所管事業は永桶次長から、社会教育グループ所管事業は佐々木参事から説明

**【質 疑】**

**(町長)**

ただいま教育委員会事務局から説明がありましたが、これまでの教育委員会議の中でも情報共有されているものも多いと思いますが、改めて皆さま方から何かご質問ご意見ありましたらお願いしたい。

**(委員)**

教育・保育施設整備事業にあるはやきた子ども園のエアコン設置に関連して、おいわけ子ども園の方は設置されているか。

**(町長)**

おいわけ子ども園については、既にエアコン設置されている。

**(委員)**

追分公民館整備事業について、公民館大ホール内移動式の客席について、故障していたかと思うが状況等どうか。

会議概要

(町長)

修理が終わったことで周知はしていないが、既に直っており、使えるようになっている。

——(2) その他教育行政に係る町長・教育委員会の意見交換——

町長より、資料2「安平町における新たな取組み」に基づき、デジタル分野と脱炭素・エネルギーに関する取組み状況等の情報提供を行った。

#### 【質 疑】

(委員)

追分公民館の太陽光パネルについて、パネル自体は何年程度使用可能なものか。  
また、メンテナンスや経費等は考えられているか。

(町長)

以前、メガソーラー発電が設置された際は、20年ということでお聞きしていた。技術的・専門的な部分については、事務局に民間企業にも入っていただいていることから、使用年数は長くしながら、廃棄時も資源として再利用できるようなことも検討してきければと考えている。風力発電の可能性も模索してきたが、場所的な制約等もあり、当町においては太陽光発電が適しているということで、これに基づいて積算している。  
メンテナンスや経費について、現在の準備会の中ではそこまでの議論はなされていないが、これから協議会を立ち上げて、その中で詰めていければと考えている。

(委員)

公共施設のWi-Fi整備について、今後各地域の町内会館などへの整備は考えられるか。

(町長)

現段階では多くの人が集まり、イベントやコワーキングスペースとして活用される場所として地区公民館を優先的に整備させていただいているところであり、まずはそうした場所の利用をお願いしたい。

(委員)

ゼロカーボンについて、そもそもゼロカーボンや脱炭素となったらどうなるのかなどについて、わかりやすい町民周知・広報周知をお願いしたい。

(町長)

あびら環境フォーラムの開催により、ゼロカーボンについて町民理解を深める機会を創出していきたい。

(委員)

再生可能エネルギーの導入について、戸建て住宅の新築の際に助成を行うことは考えられるか。

(町長)

そうした支援を行う場合は町単費では難しい部分もあることから国の補助金を獲得していく必要がある。それに向けてまずは調査等を進めていく段階である。

(委員)

安平町デジタルDX推進計画を見た中で、住民サービスの向上という部分で、窓口手続

きの省略化とオンライン申請が令和8年度から実施していくということだが、現状どこまで進んでいるのか。

(町長)

計画の中で定める方向性に基づき進めていくが、令和6年度事業として国の補助金ที่ไม่採択となったフロントヤード改革(書かない窓口、遠隔窓口、オンライン申請など)については、住民サービスの向上や業務効率化に繋がるものと認識している。

(委員)

子ども園や学校の転入などの手続きについては、オンライン申請ではなく紙で印刷して提出になっている現状がある。学校の良さもあり転入者の多いといわれる東川町ではそうした教育分野でのオンライン申請の取組みを行っており、当町も転入者が増加傾向であることから、自宅からオンライン申請ができれば利便性向上に繋がると思われる。教育分野においても取り組んでいければ良いのではないかと。

(町長)

庁舎内で申請書類のデジタル化に関する調査を行っているところであるが、そうした省力化・住民サービス向上につながるデジタル化の取組みを検討してまいりたい。

———その他情報提供———

(井内 CPM)

安平町全体のまちづくりのことを考えていくと、今回早来学園が出来たが、追分地区においても同様に教育を進めていくことが必要であること。そうした中で、追分小学校の校舎をどうしていくのかという部分については、長寿命化計画を踏まえたうえで、建替えも視野に入れて検討していかなければならない。そうなった場合は、町内で進めている小中一貫教育というところもあり、さらに建替えを視野に入れるとなると、追分中学校も含めた義務教育学校も選択肢の一つになってくるもの。まだ議論の土台にも乗っていない段階なので、もし可能であれば令和6年度から基本構想について議論を進めていければと考えている。

基本構想とはコンセプトや学校のあり方などの大きなもの。具体的にどこに建てるとか何を建てて予算はいくらかといったものは基本計画になるため、まずは基本構想について議論していくことについて意見をいただければと思う。

(町長)

総合計画後期基本計画においても、追分地区の学校のあり方について協議検討していく旨明記をさせていただいているところ。考え方を聞かれた際は、平成24年に完成した追分中学校校舎をベースにしながら追分小学校を増築する形で義務教育学校ができれば、幼保小中高までが連動していければ様々なことが展開できるのではないかと考えている。

まずは総合教育会議の中で、教育委員との共通認識を図ればということでは情報提供でしたが、これに対し何か意見等あれば発言いただきたい。

(委員)

いつから進めていくのかということも思っている地域の方は多くいらっしゃると思う。令和6年度から議論を進めていくということがわかれば安心に繋がるのではないかと。

(委員)

早来が注目される中で、追分地区の学校に対するいろいろな想いも出てくると思うので、まずは議論を進めていただければと思う。

(委員)

いずれ小中一貫校になると思ってはいたので、具体的に進めていただければと思う。

(町長)

早来学園については、開校に向けた考え方・方針を出した段階で移住定住が進んだということを見ると、コンセプトや方針が示されれば移住定住に繋がると思われる。ラピダスの関係でも移住先の候補としてメッセージが届くように発信できればと思っている。

このテーマ以外に意見等あればお願いしたい。

(委員)

以前から話題には出ている部分ではあるが、早来学園が今回建築賞を受賞していることもあって、早来学園前の車両センターと郷土資料館、公衆トイレがあるなど景観が気になっている。考え方について教えていただきたい。

(町長)

本当は、学校から近い場所に車両センターを移転できれば良いと考えている。学校建設時の飯場、老朽化しているしらかば合宿所のあるエリアが移転場所に適しているということも議論されてきたが、優先的に学校建設を進めてく必要があったという背景がある。

また、郷土資料館については、安平町として追分・早来の資料館を一つにするということについて、議会でも幾度か話題にあがったが、何億円もかけて整備する必要があるのかといったことも整理しなければならない。デジタルアーカイブとして整理していくことなども視野に議論していかなければならない。

(渡邊課長)

明日からインターナショナルスクールの関係で視察を行ってくるが、ラピダスの関連で問合せも出てきている。冒頭、令和6年度に向けての予算の組み立ての話を見せていただいたところであるが、一方では、人口増加のポテンシャルのある地域であるため、これからも財源確保と適正な予算執行について、教育委員の皆様方にもご協力をいただきながらまちづくりを進めていければと考えている。

(町長)

それでは予定の時間になりましたので、本日は終了させていただきます。ありがとうございました。

(終了 午後3:30)